

# 寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No. 94 2023.9.20

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山田 晃

事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9

千田 正 喜 宅

TEL 090-4036-0719



シカ(下山道)

柵越しに草花をを見る 2023.8.22 伊吹山観察会

シモツケソウ

コスモスの うた

~~~~~ まど・みちお ~~~~~

だれかに ーりん  
 あげたいのだけれど  
 コスモス  
 コスモス  
 ともだちが すき  
 ともだちと みんなで  
 てをつないで あそんでる

グラスに ーりん  
 さしたいのだけれど  
 コスモス  
 コスモス  
 あおぞらが すき  
 あおぞらを みあげて  
 みな はればれと うたってる

~~~~~ 教室でよみたい詩12か月 小学校3・4年 民衆社 ~~~~~

## 目次

- (2) 行事報告(1) みんなの掲示板③ 伊吹山高山植物と山室湿原
- (3) 行事報告(2) 子ども自然シリーズ講座④⑤ 「夏休み自由研究のヒント」
- (4) 行事報告(3) 子ども自然シリーズ講座⑦ 「ドライアイスの不思議」・私の散歩道
- (5) 行事報告(4) みんなで作る自然資料室だより  
夏休みの自然体験学習室・子ども自然シリーズ講座③ 竹のけん玉
- (6) 行事報告(5) 子ども自然シリーズ講座⑥ 水鉄砲 ⑧水辺の生きもの ねやがわ自然塾④⑤
- (7) 野外活動センターとの協働活動「森の探検」  
協力・参加活動 図書館科学講座・エスポクラフト  
淀川まるごと体験会・スポーツクラブとの交流
- (8) 自然はすばらしい シダ植物2 「ウラボロ」
- (9) 自然のふしぎ 三葉虫シリーズ2 「三葉虫の身体」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫 42 「アカスジキンカメムシ」
- (11) 図書紹介 『化石のきほん』  
展示会の日程 新会員紹介
- (12) 定例自然観察会 ④淀川点野地区 ⑤深北緑地・昆虫  
⑥深北緑地・どんぐりウォッチング  
みんなの掲示板 ④シダの観察 ⑤湖北水鳥公園と湖東百済寺  
野外活動センターの環境整備②③

第3回みんなの掲示板 伊吹山高山植物と山室湿原 8月22日(火) 参加者24名

～願いは叶う～

中村 清秀

参加者24名とともに4年振りに再開した伊吹山ツアー。下見では山頂駐車場は強風に加え霧で5m先も見えず、西コース登山口から100m程で登頂断念。ぶっつけ本番となりました。

本番当日は晴れ、米原から関ヶ原に向かう車窓から見た伊吹山は頂上付近に雲がかかっていたが、山頂駐車場は見事に晴れ渡っていました。

シカの食害があったのか、4年前と比べて草花の背が低く、花も少ないと感じました。頂上付近では左側の山肌の石灰岩が妙に目に付いたのもそのせいかもしれません。それでも、山頂まで続く登山道の脇にはルリトラノオ、シオガマギク、ミヤマコアザミ、キリンソウ、サラシナショウマ、シモツケソウ、カワラナデシコ等々。山頂付近ではイブキフウロ、ハクサンフウロが。山頂ではイブキジャコウソウが見られました。昼食後集合写真を撮り下山。東コースでは、花は殆ど見られず、足元に気を付けながら降りるのみ。このコースでも石灰岩の白い岩肌が目につきました。途中、シカが1頭見られました。出口近くで青いトリカブトの花を期待していたのですが、木はあるのですが葉っぱを食べられてしまっていて、残念でした。西コースではタヌキの「ためふん」を発見しました。



伊吹山 観察の様子

山室湿原では、保存会の方が2人来ていただき、案内をしていただきました。木道に沿って清楚で可憐に咲くサギソウやミミカキグサ、サワアザミ、カキラン、モウセンゴケなどが見られ、赤く目立つハッチョウトンボの雄だけでなく、縞々の雌が見られたのはラッキーでした。

私達が訪れる前日に地元の小学生がこの湿原で観察会をし、自然の大切さを学んで帰ったそうです。この小学校ではサギソウの保存に尽力していると聞いています。また、地元の人の話では湿原が少しずつ陸地化しており心配しているとのこと。様々な方法で湿原が保全されることを願っています。

この地を去る直前に、近くを走る新幹線であの「ドクターイエロー」が走っているのを参加者がカメラに収めました。『願い』がきっと叶うと確信し、帰路につきました。



山室湿原 観察の様子



ルリトラノオ



シモツケソウ



イブキフウロ



イブキジャコウソウ



アサギマダラ



ハッチョウトンボ♂



ハッチョウトンボ♀



サワシロギク



ミカヅキグサ



ドクターイエロー

## 夏休み子ども自然教室 「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

### □子ども自然シリーズ講座④

7月15日(土) 小学校1~3年生

子ども14名(他21名)

#### ① 生きもの大すき

～虫のふしぎ

のぞいてみよう～

山本さんが育ててきたアゲハ・テントウムシ・カブトムシ・カマキリなどのお話です。「大きなカブトムシにするにはどうしたらいいでしょう？」などクイズを入れながら、不思議なことがわかり、楽しく学びました。



カブトムシは冬幼虫で過ごすと思う人

#### ② 身近な野草の観察

～野草もおもしろい～

“野草で白い花知ってる？”から始まり、黄色や赤色の花の野草の話がありました。小里さんが持ってこられた、夏に身近で観られる野草を見ながら話を聞きました。オオバコのすもうをして遊びました。水が少なくても生きられる野草の工夫を学びました。



オオバコのすもう

#### ③ のぼれカブトムシ

～夏休みの工作～

カブトムシの写真を厚紙に張り、裏にストロー2本をハの字型にセロテープで貼り付けます。ストローにひもを通して両端を割りばしにくくと出来上がり。遊び方を教えてもらって楽しんでいました。



カブトムシ のぼれ!

### □子ども自然シリーズ講座⑤

7月16日(日) 小学校4~6年生

子ども9名(他21名)

#### ① 昆虫の観察ノートをつけよう

最初に外に出て、セミの観察をした後、部屋に戻ってセミの絵を描きました。足は？目は？等問われながら・・・

虫などを見つけたら、絵を描いて自分なりの名前を付けて、帰ってから図鑑などで調べて、自分の図鑑を作ってみるといいね。と高本さん。



カブトムシの絵を描いている

#### ② 木の葉で遊ぼう

木村さんがいろんな押し葉を用意され、葉っぱ絵の作り方の説明がありました。パンチでいろんな形の穴をあけたり、葉っぱを組み合わせたりして、楽しそうに作品を作っていました。思うようにいなくて悩む子も。自分なりの作品ができ、ラミネートしてもらい満足。



虫を作っている

#### ③ マジック4目(もく)

～夏休みの工作～

特大、大、中、小のコマをルールに従って盤に置いていき、縦・横・斜めのいずれか一行に並べば勝ちというゲームです。厚紙に4枚続きのイラストを張っていき切り取って16枚のコマ2組作りました。



大学生とゲーム

子ども自然シリーズ講座⑦ 「ドライアイスの不思議」

8月5日(土) 小・中学生

子ども 18名 (他 25名)



パンパンにふくらんだ!

ドライアイスは聞いたことがある子が多く、講師の西村さんは、予想をして実験で確かめるという方法で進めていきました。

直接接触すると危険なので軍手をはめてしました。最初に、テーブルの上にドライアイス置き、押すと滑らかに滑っていく実験をしました。次に、水に入れるとどうなるか? 泡が出てきました。ビニール袋に入れて、くくるとパンパンに膨れ、破裂しないか



ドライアイスのけむりが!

見守っていました。細かく砕いてジュースに入れて混ぜるとシャーベットに。おいしかったです。コップに入れ、ローソクの火を近づけると消える。フィルムケースに入れ、ふたをしたものに透明の容器をかぶせしばらくすると・・・、ふたと容器が吹っ飛び、びっくり。最後にざるいっぱいドライアイスざるごとお湯の中に入れると、白いけむりのようなものがモクモクと出てきて大喜び。ドライアイスの性質を楽しく学びました。

私の散歩道  
「自然観察を子どもとともに」

今年度は左記のテーマで原稿を募集しました。このように子どもたちとの自然観察を楽しめたらいいですね。

ライチョウがひょっこり!!

武藤里実(小学2年生)

夏休み、槍ヶ岳にお母さんとお兄ちゃんと登りました。はじめは、とんがっている槍の形のお山に、てっぺんまで登るのがこわくて、とてもきんちょうしました。とちゅうから、雪けいが出てきて、雪けいの中から、ライチョウがひょっこり出てきました。はじめて見ることができて、うれしかったです。

頂上はとてもせまくて、こわかったです。でも、見晴らしはとてもきれいでした。下山してから、山小屋で登山バッチとプリンを買いました。登った槍ヶ岳を見ながらプリンを食べました。おいしかったです。

これからも、ライチョウや色んな鳥をみれるので、色んなお山に登ってみたいです。



孫と一緒に虫捕りに

中村清秀

孫は現在小学校1年生。虫やトカゲにとっても興味をもっている。先日も近所の家の軒下でヤモリを見つけ手づかみで捕まえた。

7月末、友人が奈良・柳生の山で茶畑をしているので、孫を連れてカブトムシ捕りに訪れた。今年はイノシシが土を掘り起こし、カブトやクワガタの幼虫を食べたので成虫が少ないという。

山の中ではアゲハチョウやシオカラトンボが飛びかい、カマキリやゲジゲジなど虫はどこにでもいるが、肝心のカブトは見つからず。そんな中、突然孫が地面を手で押さえまわっている。“どうしたん?”と聞くと、“アカハライモリを捕まえた”と言う。背は黒く、腹は赤い、まぎれもなく彼の手のあるのはアカハライモリ。名前を知っていることにも驚いた。彼の探し物はカブトやクワガタだけではなく、あらゆる方向にあった。

帰路につく車中で、アカハライモリの入ったプラスチック容器を何度も何度もぞき込んでいる。うれしくてうれしくてたまらんという顔をしている。孫に元気をもらった。



## みんなで作る自然資料室だより

コロナ前に返ったようで、にぎやかな夏休みを迎えました。スタッフの皆さんお疲れ様でした。

### □夏休みの自然体験学習室

今年の夏休みの学習室は新型コロナが 5 類になったこともあり、感染対策を見直して予定通り実施することができました。



賑わう自然体験学習室

賑わう自然体験学習室  
と比べると、夏休みが 1 ヶ月と少なくなったけど、「このような場所があるだけで、すごく助かります」とおっしゃるお母さん。ほぼ毎日来て、自分の工作に熱中する子や親子で来て子どもの思いを聞きながら、一緒に楽しく作っていく家族など、充実した暑い夏の活動でした。

夏休みの活動日は 25 日間で、ほとんど毎日午前午後とも親子で賑わっていました。予定していたイベントはもちろん、どんぐり工作、折紙、コリントゲーム、木のペンダントなど全 77 種類もの工作をして、延べ 333 名の子どもと 215 名の大人が楽しみました。その中で、コリントゲームと巻絵、竹工作、六角パズルなどは 2・3 日もかけて頑張っている子どもがいました。以前



どんぐり工作



子どもたちの作品

### □子ども自然シリーズ講座

#### ②道具を使って工作(竹のけん玉) 6月17日(土) 子ども5名(他13名)

机の上には、のこぎりと紙やすり、竹の筒、カッターナイフ、マジック、ひもが用意されています。はじめに竹とけん玉の話講師の東森さんが分かりやすく説明されました。竹にマジックで線を入れ、線の通り切るのに四苦八苦。滑りやすい竹を切った後は、「やった！」と満足していました。



きれいにみがきました

最後は、カッターナイフで削ったり、紙やすりで整えたりして仕上げていきます。持ち手の竹とカップの竹をひもでつなげて出来上がりです。「ノコギリを初めて使ったが、上手に使えてうれしかった」「カップが入った時の音が気持ちよかった。もっとしたかった」という感想がありました。



とばすぞ!

□子ども自然シリーズ講座⑥

水鉄砲作り 7月29日(土) 子ども17名 (他25名)

竹の筒、押し棒、スポンジ等がセットにして用意されています。竹の先に水の出る穴をキリであけ、押し棒の先に竹串を刺し、スポンジと布をひもでくりつけピストンを作ります。筒との関係で強く巻きつける必要があるため、大人の人にも手伝ってもらいくりつけました。最後は、筒に押し込んで完成です。

子どもたちは、あらかじめ駐車場に仕掛けてある的に向けて水を発射し楽しみました。この日は、「積水ハウス兵庫工場」の家族の方も子ども連れで楽しめました。子どもたちから「すごく楽しかった」「ありがとう」「作るのが楽しかった」という感想がありました。



ひもをきつく結んで!

□子ども自然シリーズ講座⑦

水辺の生きもの 9月9日(土) 子ども18名 (他25名)

水辺に親しむ会の新城さんが、カメやタウナギ、ヒバカリ(ヘビ)を持ってきて下さいました。かわいいヒバカリや大きなオオアタマクサガメ、たくさんのクサガメ等に子どもたちは興味津々。プロジェクターを使って、メダカの雄と雌の違い、メダカとカダヤシの違い、アメリカザリガニについて、水路にいるカメがタニシを食べている動画など寝屋川に住む魚類の話がありました。子どもたちは興味深く見たり聞いたりしていました。休憩時にはカメやタウナギ、ヒバカリをさわって大喜びでした。



メダカの雌は



ヒバカリやタウナギ

□ねやがわ自然塾 (第6期)

○第4回講座 9月15日(金)

「川とくらし」

- ①淀川・寝屋川・古川等についての話
- ②寝屋川市の水路(史跡など)を訪ねる



寝屋川は天井川で・・・

※6月2日(金)の延期分

○第5回講座 7月7日(金)

「シダ植物」

- ①本当におもしろいシダ植物
- ②センター近隣のシダ植物を観察



こんな水路にもシダ植物が!

## 野外活動センターとの協働活動

□森の探検(高岡幼稚園) 7月21日(金) 園児23名 協力者3名

2グループに分けて探検を行いました。最初にアリジゴクを見て、ステゴサウルスを探しに森の方へ。アラカシの葉でギザギザができるとステゴの背中。失敗しながらもできると大喜び。オオバコの相撲ではお友だちやスタッフと対戦。森の広場では虫の話を聞いたりして森の探検を楽しみました。「森を歩いて楽しかった」と感想を。最後に、どんぐりペンダント(材料)のおみやげをもらい、大喜びでした。



ステゴ できた!

## 協力・参加活動

### □図書館行事

科学実験「1円玉のふしぎ」 7月23日(日) 子ども15名(他21名)

「コップいっぱいの水に、一円玉を一枚ずつ入れると、何枚入るかな?」の問いに、子どもたちは慎重に一枚ずつ入れていきます。次に、「水槽に一円玉を浮かせることができるかな?」の問いに、浮かせようと水面に持っていくのですが。他の班で「浮いた」の声であちらこちらからも「できた」の声。コップの縁や軽い一円玉の周りの縁に気づかせ、水の表面張力に気づかせていく実験でした。



### □エスポクラフト

水万華鏡・どんぐり工作 9月10日(日) 参加者13名 協力者2名

水万華鏡は、中に鏡の入った筒を作り、それに水で薄めた洗濯のりやビーズなどを入れた透明の管を付けます。待ちきれずのぞいてみて、思わず「きれい!」。筒を模様紙で飾ってでき上り。

「どんぐり工作」は、ドングリや木の実葉っぱを使い、グルーガンを使って作品を作ります。思うような作品ができ満足気でした。



きれい!!



どんぐり工作

### □淀川まるごと体験会

9月10日(日) 参加者約50名 協力者5名  
4年ぶりの行事。カヌーに乗ったり、高い木の枝からのブランコに乗ったり、参加者はみんな楽しそうでした。

本会からは、点野地区の植物調べをしたりどんぐりペンダントづくりなどをしました。テントウムシやバッタの観察も楽しみました。



学ぶ会のコーナー

### □スポーツクラブとの交流

9月9日(土) 参加者11名 協力者2名  
淀川点野野草地区にある野球場を利用して、淀川の自然を知ってもらうためのイベントです。中学生がオニグルミやムクロジの実が食料になったり、生活に使われたりすることを興味深く聞いていました。木の高さも測りました。



オニグルミおいしい

# 自然はすばらしい シダ植物シリーズ 2.

## ウラジロ 裏白 ウラジロ科

天野 史郎

ウラジロといえば、お正月のしめかざりでおなじみのものです。しめかざりにはウラジロの葉の一部である一対の羽片がついています。和名は葉のうらが白いことに由来します。



新芽を展開しかけのウラジロ

ウラジロの葉は他のシダには例を見ない生長をします。まず軸の先端から羽片が一対でてきます。翌年はこの羽片のつけ根から芽が出て、さらに一対の羽片を展開します。これを毎年くりかえして、2~3メートルにもなる大きな葉になります。その様子が、家が子々孫々つづいていくさまになぞらえ、縁起がよいとされるのでしょう。

暖かい地方では葉は10年以上生長を続け、羽片も2~3年くらいもちます。したがって葉の下部には枯れた羽片の痕跡が残っています。これを数えると何年経ったかわかりますが、根元にもぐりこまねばならず結構なんぎです。

一般的にシダの葉は頂羽片をつけると生長を止めます。さて、何年も生長をつづけるウラジロはい

つ頂羽片をつけるのでしょうか？ ウラジロはもともと向陽地を好みますが、日陰でも比較的よく育ちます。しかし暗い林床では、頂羽片をつけ一年で生長をやめてしまう個体を見ることがあります。そうしたウラジロは圧倒的に小さく、20cmくらいしかありません。

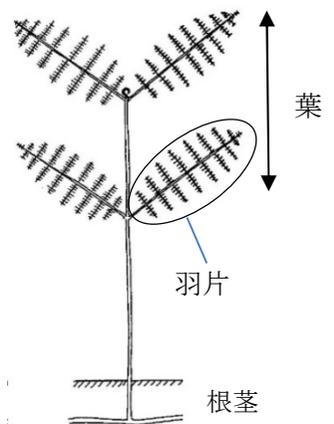


矢印が頂羽片

なかなか見る機会の少ないものなので、皆さんも探してみたいでしょう。

ウラジロは関西では普通にみられますが、関東北部では非常に珍しく、宮城県が北限の南方系のシダです。根茎は地中を長くはい、ところどころから芽をだして葉を展開します。

ソーラスは葉のうら側に丸い胞子のうが3個ほどかたまってつき、包膜はありません。ウラジロ科は世界では熱帯を中心に130種が知られますが、国内では他にコシダ、カネコシダ(九州に分布)の3種が知られるだけです。



# 自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「火山のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「三葉虫シリーズ」をお届けしています。

## 三葉虫シリーズ2

### 「三葉虫の身体」

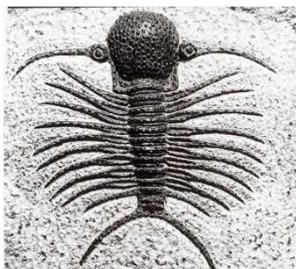
西村 寿雄

前回の図をもう一度示してみます。たくさんひだひだが目につきます。三葉虫には固そうな節のついた殻がありますので「節足動物」の一つとされています。化石に見る限り何か固そうな姿ですが中身はれっきとした動物だったのです。あの殻(頭・腹・尾)の下に動物本体の身がくっついていました。

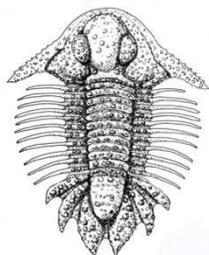
だいたい普通の図鑑や教科書などに出てくる三葉虫は上図のような形ですが、三葉虫は何億年も生きてきた動物です。もっと違った形の三葉虫もいたのでしょうか。『世界の三葉虫』という本を見ると驚きました。多様な姿の三葉虫化石が載っているのです。バラエティに富んでいます。



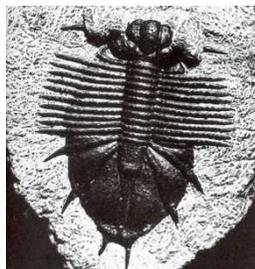
三葉虫化石



シルル紀 中期 モロッコ



デボン紀 モロッコ



デボン紀 モロッコ

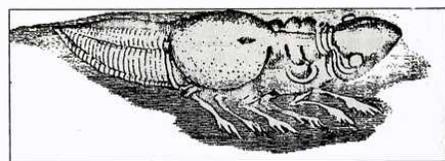


デボン紀 中期 モロッコ

なんととげとげの多い仲間です。もともとはこんな姿だったのでしょうか。

日本では三葉虫化石は東北地方の一部でしか見つかりませんので、こんな姿はあまり目にしませんでした。さらに、腹の中身は化石として残りませんが、わずかの化石から立体的に腹の中や足を想像した人がいます。どうでしょうか。なにかザリガニに似ていますか。

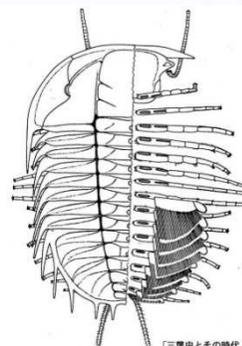
それでは、あのとげのある胸の部分は一枚板なのでしょうか。胸の部分は「かたい関節でつながる胸節からなり、体の屈伸を可能にしている。」(『世界の三葉虫』)とあります。あの固そうなひだひだは一枚板でなく細い骨のつながりになっているのです。背中もひだも自由に動くのです。なので、図のような丸まった体の化石も発見されています。おそらく、外敵から身を守る時の防ぎよの体制でしょう。今のダンゴムシに似ていますか。



空想三葉虫 J・S シュレーダー 『三葉虫の謎』



『原色化石図鑑』



『三葉虫とその時代』

数億年前の大昔、こんな生き物がいたとは不思議です。次回は三葉虫の生活の様子をお話ししましょう。

私の自然観察

身近な昆虫 42

—アカスジキンカメムシ—

高本 憲二

8月22日(みんなの掲示板自然観察会)の伊吹山山頂ではセアカツノカメムシが大発生していました。伊吹山にはクマノミズキがありこの実を目当てに大発生していたのかも知れません。今回は同じカメムシの仲間のアカスジキンカメムシについてです。



伊吹山にいたセアカツノカメムシ

アカスジキンカメムシは輝く緑色の体に赤い筋模様のある美しい姿のカメムシです。キンカメムシの仲間は背中中の小楯板(しょうじゅんばん)と呼ばれる部分が発達して背中全体を覆っています。ほかの多くのカメムシは小楯板が背中中の全部を覆っていないので、下の翅が見えています(左写真矢印△部分が小楯板)。背中全体を小楯板が覆っているアカスジキンカメムシは翅が見えていません(下写真)。

アカスジキンカメ



ジム組す。すくきの

シの翅(正しくは小楯板)の輝きはタマムシと同じ仕組みで構造色と呼ばれ、光の反射で美しく輝いて見えまタマムシの翅はいつまでも輝くため装飾品に使われまが、アカスジキンカメムシの翅は死んで乾燥すると黒くすんでしまうので装飾用には使えません。アカスジキンカメムシの輝きは生きているからこそ維持できる命輝きなのです。

アカスジキンカメムシは、成長に応じてその美しさが変化します。カメムシは不完全変態でサナギの段階のない成長の仕方をする昆虫です。アカスジキンカメムシの卵から孵った初期のころの幼虫は宝石のように赤くキラキラ輝く姿(左下)をしています。そして成長して終齢期になるとその模様はガラッと変わり白と黒のシックな姿(右下)となります。



とこ=臭い



ろで、

カメムシ

となりますが、このアカスジキンカメムシは臭くないカメムシとして定評があるそうです。アカスジキンカメムシは主にミズキやコブシなどの樹木につきま。涼しくなったら近くの観察地(お勧めはむろいけ園地)でコブシの葉の中を覗いてみませんか?きっと美しいカメムシに出合えることでしょう。ついでに臭いも嗅いでみましょう。

アカスジキンカメムシ : *Poecilocoris lewisi* カメムシ目 キンカメムシ科

## 図書紹介

～こんな本が出たよ～

## 『化石のきほん』

泉賢太郎/著 菊谷詩子/絵 誠文堂新光社

ちょっと高学年向きの本。文字が小さいが中学生なら読める。文章表現はやさしい。いろいろイラストも多く読みやすい。

「化石のきほん」について最近の知見も含めて語られている。

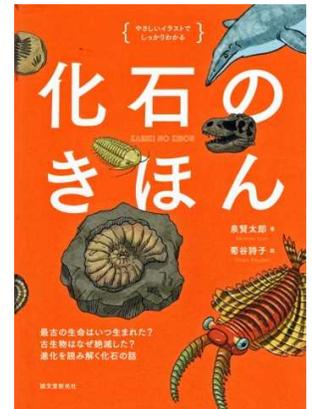
最初の Chapter1 はいろいろな化石について紹介されている。化石として残らない「化石」もある。Chapter2「地層と化石」からではまず「地層のでき方」から始まる。地層ができるには普通は地下の圧力が考えられるがそれだけでは地層になりにくい。間にある水の中で鉱物が生まれその鉱物の粒子と粒子ががっちり組むことによって地層は生まれるという。いよいよ化石の話。カンブリア紀は生物が爆発的に増えたことで知られている。一つは海底下にもぐる生き物が増え酸素が海底でかく乱されたからという。もう一つは、眼のある生き物が生まれたからと言う。食う方も食われる方もし烈な戦いが生まれ種の増加につながった。

いよいよ生物は陸上に進出する。まずオルドビス期にはコケや地衣類が生まれシルル紀になると大型の植物が増え茎も出始める。大気中の酸素濃度も増して、いよいよ植物は繁茂する。分解する微生物の出現は遅く、植物遺体はたまる一方、そこで土壌や石炭が生まれてくる。この辺の変化がわかる化石も見つかっているという。

動物の陸上進出もおもしろい。陸に上がるには陸上で生きるすべを獲得しなければいけない。まず陸上に上がってくるのは両生類、丈夫な四肢を持った背骨動物である。石炭紀には巨大な昆虫類も生まれる。当時酸素濃度が 35%にもなった。

中生代になると大恐竜時代を迎える。白亜紀末には恐竜は絶滅したが鳥類になる恐竜は生き残った。新生代になり気温も下がってくると珪藻の多様化がおきオキアミの増加につながりクジラ類の多様化にもつながったという。第四紀になるといよいよ人類紀。人類の進化も多様だ。興味ある話が続く。

2023年4月 1,800円 &lt;西村 寿雄&gt;



## お知らせ

## 展示会の日程が決まりました

- 2023年度 展示会「私の自然観察」  
 日程： 2024年1月11日(木)～16日(火)  
 会場： アルカスホール 1階ギャラリー

## 例年通り作品の募集します。

「自然」に関わる写真などをお寄せください。詳しくは次号でお知らせしますので、ご予定ください。

## 新会員紹介

会員数 159名

(9月18日現在)

伊藤美奈子 大原昭男

東村康正 東村久里子

(敬称略)

# 行事予定



サギソウ 山室湿原

## ～ 定例自然観察会 ～

### 第4回 秋の淀川 点野野草地域

～秋の野草もおもしろい～

- ◇日時: 9月23日(土・祝)9:30～12:00雨天中止
- ◇集合: 淀川・太間公園駐車場付近 9時30分
- ◇コース: 太間公園～点野地域
- ◇案内: 本多政雄さん  
身近な自然ガイドブック「秋の淀川」  
発刊記念として実施します。

### 第5回 深北緑地 昆虫観察

～昆虫さがし・バッタ飛ばし・バッタクイズ～

- ◇日時: 10月8日(日) 9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合: 深北緑地管理事務所前  
(第I駐車場横) 9時30分
- ◇場所: 緑地内・深野池付近
- ◇持ち物: 網、虫かご、水筒、帽子など
- ◇案内: 高本憲二さん

### 第6回 深北緑地 どんぐりウオッチング

～どんぐり拾い・どんぐり工作ほか～

- ◇日時: 11月5日(日) 9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合: 深北緑地管理事務所前  
(第I駐車場横) 9時30分
- ◇コース: 緑地内 ロケット広場 深野池ほか
- ◇持ち物: 水筒、雨具、筆記用具など
- ◇案内: 木村雅行さん



キオン 伊吹山

## --- 編集後記 ---

暑かった夏の行事の報告と少しは涼しく実りの秋を迎え自然観察も彩を添えて楽しみです。少しは色彩のページの増えた会報 94 号をお届けします。子どもたちの自然体験の声も少しずつ増えたら楽しいかと思ひます。

## みんなの掲示板・自然観察会

### 第4回 シダの観察

～交野市 私市植物園～ 雨天中止

- ◇日時: 10月9日(月・祝) 9:30～12:00
- ◇集合: 私市植物園内入口付近 9時30分
- ◇持ち物: 水筒、雨具など  
これまで 河内森近辺のシダ観察でしたが、今回は私市植物園内のシダ観察をします。

- ◇案内: 天野史郎さん
- ◇下見: 9月27日(水) 日程は当日と同じ

### 第5回 湖北水鳥公園と湖東百済寺

～冬鳥・コハクチョウと紅葉～

- ◇日時: 11月23日(木・祝) 8:00～18:00
- ◇集合: 京阪寝屋川市駅東側  
アルカスホール前 午前8時
- ◇持ち物: 弁当、水筒、雨具など
- ◇参加費: 6000円程度(拝観料含む)25名
- ◇参加申込: 11月9日(木)までに下記へ  
中村(090-8750-5738)・千田(090-4036-0719)
- ◇マイクロバスを利用します。

## □ 野外活動センターの

### 自然観察と環境整備

- ◇日時 その②: 10月3日(火) 10:00～14:00  
その③: 12月5日(火) 10:00～14:00
- ◇集合: 野外活動センター 10時
- ◇持ち物: 帽子、雨具、水筒など
- ◇内容: 自然観察と環境整備  
\*お楽しみ昼食あり
- ◇参加申し込み:  
その②: 9月30日(土)  
その③: 12月2日(土)までに  
千田(090-4036-0719)  
東森(090-5645-1531) いずれかへ